

ラストメッセージ ～おばあちゃんありがとう～

大好きな祖母に突然の余命宣告…

在宅介護を通して祖母からもらった大切なメッセージを、

足羽利生苑職員の安野光暢みつひろさんが教えてくれました。



突然の宣告

「いいか光暢、友だちとケンカしたらすぐ謝らんとあかんよ。それに、人を悪くするのは酒・金・女やでな」

私が小さいころから何度も耳にしてきた祖母の口癖です。祖母はとても働き者で、嫁ぎ先の姑を自宅で看取り、3人の子どもを育て上げ、家事や畑仕事を一生懸命やってきました。大好きな祖母の影響で私は今、介護職に就いています。

そんな祖母がある日突然、胃がんの末期で余命3ヶ月の宣告を受けました。昨日まで元気に過ごしていただけに、私たち家族のショックは大きく、現実を受けとめることができませんでした。検査入院中の祖母には告知しないまま「絶対病院へ入るのは嫌」という祖母の言葉を聞き、何が出来るかを家族で話し合い、在宅での看取りを決意しました。

家族みんなまで

祖母が家に帰ってきたその日から、在宅介護が始まりました。私は担当ケアマネージャーとして、医療・福祉と連携を図り、祖母にとって最善の環境を用意することに努めました。

家族間でも介護の役割を決めました。父は毎日祖母の横で寝るようになり、日中仕事をしていた母は、休日はずっと傍について介護を行い、私と妹は食事介助やオムツ交換、妻は薬の管理や話し相手。苦労もあつたけれど、家族全員が一丸となって介護することで、私たちは1つの家族になれたと思います。

奮闘の日々の中でも、明るい出来事もありました。半年後の妹の結婚式に出席できない祖母のために、自宅で花嫁姿を披露しました。和やかな雰囲気や部屋の中に漂い、家族みんなの笑顔があふれていました。



敦賀行ったの楽しかったね



おばあちゃんは「家族」のことをいつも一番に考えてくれていたね



おばあちゃんに恩返しできたかな



びっくりしたやろ～!!

ありがとう おばあちゃん

在宅介護が始まって2か月半。家族にも疲労の色が見え始め、祖母は腹水がたまり始め、日ごとに容体が悪くなっていきました。

食事も減って自分で食べられなくなり、水分もトロミが必要になりました。父の慣れない水分補給でむせ、私の吸引がうまくできずに看護師を呼んだこともありました。トイレに行くのも困難になり、妻は排便で汚れたオムツも交換していました。「祖母が亡くなってしまう」という不安を抱えながら、私は仕事と在宅介護の両立で、自宅に帰ってからも仕事の延長で担当者会議を毎日しているようでした。

おばあちゃんが 教えてくれたこと

祖母が亡くなり3年が経ちました。当時を振り返ると「最期まで自宅にいたい」という祖母の思いを知っていながら、病院に搬送したことは正しかったのか、祖母は幸せだったのだろうか…と、考えるときがあります。

しかし今は「家族についてもっと考え、介護についてもっと勉強し力をつけなさい」という、愛情たっぷりの宿題を、祖母からもらったのだと思えるようになりました。私は単に「介護という仕事」を選んだのではなく「幸せを作っていく」という生き方を選んだのだと。この経験を糧に、在宅で介護されるご家族や利用者の方と「家族にしかできないこと」を一緒に考え、祖母からもらった宿題を、自分なりに解決していきたいと思っています。

足羽利生苑

居宅介護支援センター

副主任 安野光暢